

戦後の教会

シリーズ・日本人と聖書

第16回

敗戦と日本国憲法

- ポツダム宣言受諾(1945年)
 - 「言論, 宗教及び思想の自由並びに基本的人権の尊重は, 確立せらるべし。」(第十条)
- 天皇制絶対主義の崩壊・神社神道の権威失墜
- 「日本国憲法」の成立(1947年)
 - 「信教の自由は, 何人に対してもこれを保障する。」
- キリスト教会は始めて信仰と宣教の自由を獲得した!

マッカーサーと東久邇宮内閣

■ マッカーサー

- 強いキリスト教的使命感をもった占領政策
- アメリカ的民主主義の基盤としてキリスト教は不可欠だと考えた

■ 東久邇宮(ひがしくにのみや)内閣

- キリスト教の代表を招いて復興協力要請
- **賀川豊彦**を内閣参与に起用
- YMCAの齊藤惣一郎総主事は海外在留者のための引揚援護員初代長官

賀川豊彦



- 1904年，宣教師H・W・マヤスより受洗
- 1909年，神戸市新川の**スラム**にて伝道
- 1914年，渡米，プリンストン神学校に学ぶ
- 1919年，「友愛会関西労働同盟会」を結成
- 1929年，基督教連盟は「**神の国運動**」を議決，
賀川は「**百万人の救霊**」を目指して全国巡回
- 戦後，内閣参与，貴族院議員
- 1955年，**ノーベル平和賞候補者**

教派・教団の発生

- 戦争中(1941年), プロテスタント34教派は「**日本基督教団**」に統合された
- 1946年, 聖公会・救世軍・東洋福音宣教会などが, 翌年にはルーテル教会派・バプテスト連盟などがそれぞれ独立した
- 大挙して押し寄せた宣教師たち
- キリスト教会の「**箱庭**」の誕生
 - 宣教地より教派・団体の利益を優先！

キリスト教ブーム

- 占領軍(お上)の宗教であるキリスト教
 - 各地で聖書研究会が開かれ、求道者は急増
 - ミッション・スクールの人気。クリスマス流行
 - 一箇村全体が、カトリックに改宗した例まで
- 活発な路傍伝道・開拓伝道
 - 英語・宣教師の魅力
- 敗戦による失望、新しい価値・人生を求めて
 - 敵の宗教であったにもかかわらず

その後のキリスト教

- 1960年代まで毎年1万人以上の受洗者
 - 青年層を中心に
- 1970年代(高度成長期)に入り, 減速
 - 子ども・学生伝道盛ん
- 1980年代以降停滞(人口の1%)
 - 異端・カルトの横行
 - 高齢化

富に支配された国

- 経済成長に伴って教会離れが進んだ
- 今、この国は富(経済)の神に仕えている
 - 富の神を喜ばせるために全てを犠牲にしている
- 富に苦しめられている国
 - 莫大な借金・歪んだ教育・崩壊した家族・3万人を超える自殺者・心の病気

「あなたがたは、神と富とに仕えることはできない。」 <ルカ16:13>